

要 約

アユの冷水病は、細菌 (*Flavobacterium psychrophilum*) による疾病で、河川漁業に大きな悪影響を与えている。

そこで、冷水病の被害を軽減できるような放流手法を開発することを目的に調査を実施した。

その結果から、以下のことが考えられた。

- ・冷水病対策会議の指針より早期に小型の種苗を放流したほうが、放流効果が向上する。
- ・海産系種苗の放流は冷水病被害を軽減させることが確かめられたが、放流効果が高まるかどうかは条件による。
- ・追加放流は、冷水病発生後の釣れ具合向上に効果的であったが、放流から漁獲までの増重が小さいため、放流効果は低い。

今後の課題として次のことが考えられる。

- ・早期解禁の有効性を裏付けるための、データの積み増し。
- ・解禁前に冷水病が発生する原因の解明。

なお、本事業については「平成 30 年水産防疫対策委託事業(水産動物疾病のリスク評価)」として実施し、詳細については「(1) リスク評価のための基礎調査

③アユの重要疾病の発生メカニズムの研究」として農林水産省へ報告した。

(指導環境室)